令和元年６月１４日
農林水産委員会提出資料
（当日配付）

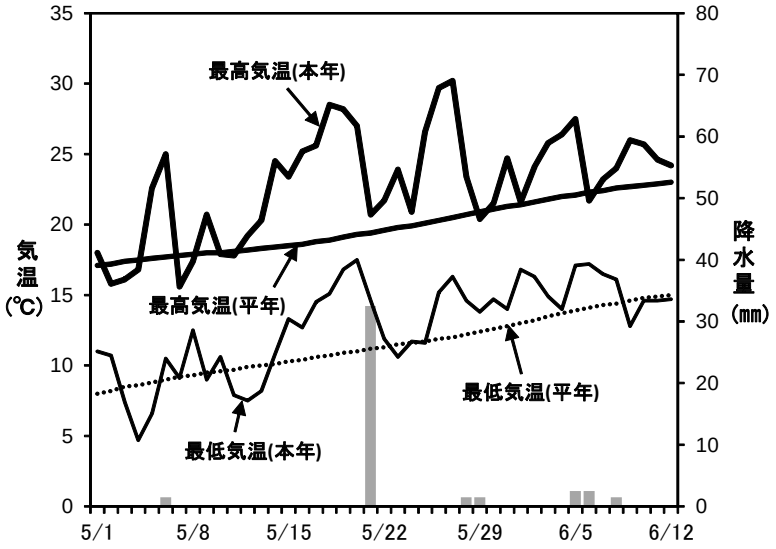
少雨による農作物への影響等について

水田総合利用課

１　気象経過

○　５月以降晴天が続き、気温が高めに推移している一方、降水量は少なく、特に、県北部と県中央部では平年の３～４割となっている。

【５～６月中旬の気象経過（秋田）】



【６月12日までの30日間降水量】

地域	観測地点	本年(mm)	平年比(%)
県北部	鹿角	22	26
	鷹巣	35	33
	能代	36	41
県中央部	秋田	42	42
	男鹿	40	48
	五城目	32	35
	本荘	40	42
県南部	大曲	68	70
	横手	91	112
	湯沢	74	99

２　農業用ため池の貯水状況等（６月11日時点）

○　全県平均の貯水率は57.2%（平年同期比 79.4%）で、地域別では、山本、秋田が低く、特に、浅内沼ため池（能代市浅内）で12%、大滝沢ため池（秋田市上新城）で17%となっており、排水の反復利用等の対策を行っている地域もある。

(%)

区　分	地　域	貯水率（平年同期比）
県北部	北秋田	64.4　(88.5)
	山　本	22.8　(34.0)
県中央部	秋　田	28.6　(44.5)
	由　利	72.7　(102.1)
県南部	仙　北	60.8　(76.9)
	平　鹿	72.0　(94.3)
	雄　勝	84.9　(121.3)
全　県		57.2　(79.4)

※県内29箇所のため池(貯水量60万m^3 以上)の調査による。

３　農作物への影響

（１）水稲

沢部や小さいため池など、水源に乏しい地域の一部で、田植えができないほ場が点在している。

また、田植え後に用水が不足しているほ場では、除草剤効果の低下による雑草の繁茂や、茎数不足が懸念される。（山本、秋田）

（２）園芸作物

野菜や花きなどの露地品目では、一部で生育の遅れが見られるほか、収穫期のアスパラガスやじゅんさいでは、収量が減少している。

《えだまめ》

・早生種の一部で生育の遅れが見られており、さや数不足による減収が懸念される。（北秋田、秋田、仙北）

《ね　ぎ》

・夏ねぎは、地下かんがい設備等がないほ場の一部で、生育が15～30日程度遅れており、太り不足による減収が懸念される。（山本、秋田、由利、仙北）

《アスパラガス》

・４月の低温や５月の少雨により、４～５月の出荷量は前年より２割程度減少し、特に、北秋田地域では約３割減となった。（北秋田、由利）

《じゅんさい》

・生産面積の約８割で水不足となり、中には収穫を断念したほ場も見られ、出荷量の減少が見込まれる。（山本）

（３）牧草

１番草の収穫作業は順調に進んでいるが、全体的に草丈が短く、１～２割程度の減収が見込まれる。（北秋田、秋田、由利、仙北）

４　今後の対応

これまで、「少雨による農作物の被害防止対策」（６月６日）を発出するなど、技術指導を行ってきたが、梅雨入りは平年より遅くなり、水不足傾向が続くものと予想されることから、現場の状況に応じ、作付転換も含めたきめ細かな指導を実施していく。

（１）水稲

・田植えの晩限は６月上旬であることから、市町村やＪＡと連携し、大豆やそばへの作付け変更などについて、指導を行う。
・田植え後に用水が不足しているほ場では、茎数を確保できるよう浅水管理を徹底するとともに、雑草の発生が多い場合は追加防除を行う。

（２）園芸作物

・野菜や花きなどの露地品目では、可能な場合は畝間潅水を行うとともに、追肥など適切な肥培管理により生育を促す。
・特に、えだまめで発芽不良の場合は、播き直しや大豆への転換を行う。また、アスパラガスについては、適期に立茎や追肥、防除作業等を行い、株養成を促しながら夏秋期の収量を確保する。

（３）牧草

・生育状況を確認しながら、２番草・３番草の収穫に向けて追肥を行う。

（４）その他

・農業用ため池については、今後も土地改良区と情報を共有し、必要に応じて節水等の指導を行う。